

## 南部アフリカの夜明け

- 1) 旧イギリス南アフリカ会社が支配した南部アフリカの広大な地域には、現在3つの国家がある。
- 2) 1964年に、北ローデシアがザンビア共和国として、英保護領ニヤサランドがマラウイ共和国として独立した。図1・図2参照。
  - ① **ザンビア共和国**は、大自然が良く保存され、ゾウ、カバ、キリン、シマウマ、ヌーたちに会うことができる。アフリカで最も平和な国と評価されている。ヴィクトリア瀑布がある。
  - ② **マラウイ共和国**は、国土西部をアフリカ大地溝帯が縦貫し、国土はほとんど高原上にあり、マラウイ湖西岸にあって南北に細長い。図2の太線囲みがマラウイ湖。
- 3) ポルトガルの植民地 ※1 だったアンゴラとモザンビークの独立運動開始に影響されて、1965年に南ローデシアの白人政権が独立を宣言した。アフリカ人の武力抵抗が開始され、1980年に【1:



】 ※2 として独立した。1981年、独立総選挙が行われ、社会主義を掲げるムガベ政権が成立した。ムガベは1987年から大統領、1997年にアフリカ統一機構議長。

2009年1月26～27日に南アフリカにおいて南部アフリカ開発共同体緊急首脳会議が開催され、ツァンギライを首相に任命するよう勧告が行われた。ムガベはこの勧告を受け入れ、包括的政府が成立した。また大統領選挙についても憲法改正後に行うことで与野党が合意した。2013年3月に新憲法が国民投票によって承認され、2013年7月31日に大統領選挙が行われた。ムガベはこの選挙で61%の票を獲得し、ツァンギライを下し6度目の勝利を収めた。ムガベは現在、世界最高齢（1924年生まれ）の国家元首とされている。

※1 ポルトガルの民主化はNo.185、No.201。アンゴラ（1975）とローデシア（1975）の独立についてはNo.201参照。

※2 グレートジンバブエ遺跡についてはNo.52を参照。ジンバブエ共和国の首都ハラレの南方300kmにある。

## 南アフリカ共和国

- 1) ケープ植民地を前史とする自治領南アフリカ連邦が、1961年にイギリス連邦を脱退して南アフリカ共和国となった。ケープ植民地についてはNo.159参照。
- 2) 【2: 】（アフリカーンス語で「分離、隔離」の意味）とは、南アフリカ共和国が成立する以前の1948年から、ブール人系の国民党などが中心となって推進した黒人や有色人に対する人種差別的隔離政策。実際には、人種差別は17世紀からあったし、差別立法もあったが、人口登録法・集団地域法・背徳法などの法と慣習を制度化し強制的に徹底したのは、意外にも第二次世界大戦後である。黒人の職種制限・居住地規制の他、レストラン・ホテル・列車 ※3・バス・公園・映画館・公衆トイレまで公共施設はすべて白人用と白人以外用に区別された。バス自体も停留所も黒人用・白人用に別れ、病院も施設の整った白人用と不十分な施設しかない黒人用に分けられた。白人専用の公園などの場所に立ち入った黒人はすぐに逮捕された。人種の違う男女の結婚は禁止。異人種の異性が恋愛関係になるだけで罰せられる。これらの差別法を非白人に守らせるには膨大な警察、管理機構が必要であったため、政府予算の半分近くがアパルトヘイト維持のための支出となった。
 

※3 ガンディーは、1893年にはイギリス領南アフリカ連邦で弁護士として開業した。しかし、白人優位の人種差別政策下で、鉄道の一等車への乗車を拒否され荷物もろとも放り出されるなどの強烈な人種差別を体験したことで、イギリス領南アフリカ連邦の人種差別政策に反対し、インド系移民の法的権利を擁護する活動に従事するようになる。
- 3) 人種差別反対運動も第一次世界大戦以前からあった。1912年結成のアフリカ先住民民族会議は、1923年に【3: 】（ANC）に改称され、第二次世界大戦後に強化されたアパルトヘイト体制と闘った。No.181参照。
 

政府は、1960年にはシャープビル虐殺事件を契機に、ANCを非合法化し、1962年、マンデラを逮捕して、ケープタウン沖のロベン島の刑務所に送った。
- 4) 【4: 】は、1952年以降毎年非難決議を採択し、1973年に国際連合総会で採択された国際条約において人道に対する罪と糾弾したが、1980年代まではアパルトヘイトが国際的非難の影響を受けることはなかった。オリンピック南アフリカ選手団は、アパルトヘイトへの制裁措置として1960年のローマオリンピックを最後にオリンピックから締め出された。その後も、国際オリンピック委員会（IOC）からたびたび勧告を受けるも拒否し続けたため、1970年に除名処分を受けた。人種隔離政策撤廃後の1991年にIOCから再承認を受け、1992年のバルセロナオリンピックで復帰する。1980年代に入ると、国内各地でますます反対運動が激化、80年代後半に微温的な改革をおこなったが運動はまったく沈静化せず、国外からの批判はさらに厳しくなり、国際的な経済制裁を受けた。
- 5) 1989年9月に大統領に就任したフレデリック・ウィレム・【5: 】はこれまでの政府（国民党）の方針を転換し、撤廃に向けての改革を進展させた。1990年2月、ANCなどを合法化し、マンデラを釈放した。1991年2月には国会開会演説でアパルトヘイト政策の廃止を宣言し、6月にはアパルトヘイト体制を支えてきた根幹法を徐々に撤廃した。しかし、黒人部族間の対立が激化し南アフリカは内戦状態に陥った。この混乱は1991年から1994年までの3年間つづき、南アフリカ社会は体制移行期の危機的な混乱を何度も経験し、多くの死者を出した。1994年4月に全人種参加の初の総選挙が行われ、憲法が制定され、獄中27年、不屈の政治家【6: 】（ANC所属）が大統領に就任、アパルトヘイトは撤廃された。1995年、真実和解委員会が設置され、国家犯罪、人権侵害について調査、犠牲者、遺族に補償した。

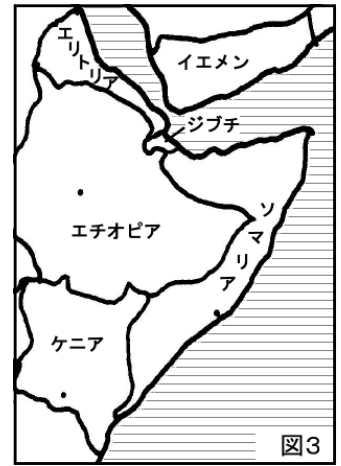
## アフリカ諸国の格差

1973年・79年の石油危機で、多くのアフリカ諸国が債務危機に陥った。1980年代に顕在化した累積債務についてはNo.213参照。21世紀に入ると、資源に恵まれて経済成長した国もある一方で、極度の貧困にあえぐ国もある。

- 1) 世界の最貧国、【7: 】とルワンダでは内戦がなかなか止まらない。ルワンダ内戦については、No.201参照。ソマリア内戦は1980年代から激化し、エチオピアやスーダンも介入し、1988年からは無政府状態と化した。干ばつからくる飢饉も起こり1992年には初めて武力行使を認められた国連PKOが派遣されたが、治安を回復できないまま撤退した。その後、暫定政権が樹立され、2008年8月には停戦協定が成立するなど、徐々にではあるが国内の安定化が進展している。図3参照。
- 2) 【8: 】では、1974年、軍部が皇帝ハイレ=セラシエ ※4 の専制と貴族制を打倒し、社会主義を宣言した。背景には、【9: 】 ※5 での独立運動や大規模な飢餓がある。軍事政権は土地改革など急進的な社会主義政策を行ったが、経済改革に失敗し、難民多数を出し、1991年、エリトリア戦線など反政府勢力によって打倒された。図3参照。

※4 アフリカ統一機構（OAU）の設立に尽力した。No.200参照。

※5 1962年にエチオピアに併合された。93年に独立。国連に加盟した。



## イラン革命の背景、その影響

第四次中東戦争は、No.196参照。イラン革命は、No.208参照。以下にその背景と影響を述べる。

- 1) イランに限らず中東イスラーム圏には、政治や文化をイスラームの根本原理に厳格に戻そうとする運動が存在した。これを【10: 】と言ひ、イラン革命もこれに基づくものである。欧米流の近代化への反発、アメリカやイスラエルの意のままにされてきた怒りもある。
- 2) **イスラーム原理主義**と**イスラーム復興運動**は概念上、別のものである。  
イスラーム復興運動とは、長年にわたりアメリカ合衆国の政策のままにされてきた、またイスラエルの強硬政策に抑え込まれてきた中東地域にあって、アラブ人の勢力回復を意図する運動を指し、それはアラブの民衆の幅広い支持を得て力を強めている。イスラーム復興運動は、本来は日常生活においてイスラームの教えを復活させるために、まずモスクを建設しよう、壊れていたら修繕しよう、そして礼拝を奨励しよう、クルアーンにもあるように貧者の救済、相互扶助活動をしよう、という趣旨のもので、冷戦後の1990年代には盛んに実践されるようになった。一方で、イスラーム復興運動の基礎にイスラーム原理主義を置く人々の行動がよく報道されるので、イスラーム復興運動を指してイスラーム原理主義と呼ぶ風潮があるが、概念上は異なるものである。
- 3) いわゆる【11: 】は1960年代後半には衰微し、アラブ民族の運動は求心力を失い、アメリカやイスラエルの意のままにされてきた感がある。これに代わるものがイスラーム復興運動である。イラン革命はイスラーム復興運動を鼓舞することになった。例えば、次の通り。
  - ①1989年 スーダンでトラベーターをリーダーとするイスラーム勢力と手をくんだ軍部クーデタが起き、政権を奪取した。
  - ②1992年 アルジェリアで、イスラーム原理主義勢力が総選挙で大勝。軍部は選挙の結果を認めず弾圧にのりだしたため、原理主義勢力は武装闘争路線にはいった。
  - ③レバノンでは60年代からシーア派の宗教家たちがイランから派遣され、イラン革命後はシーア派組織ヒズボラ勢力を支援している。
  - ④イランの隣国サウジアラビアでも、聖地メッカで反体制武装蜂起事件が起きた。
  - ⑤【12: 】では、1973年に共和革命、1978年に共産革命が起きたが、イスラーム革命が起きそうになると、1979年、ソ連軍がイスラーム革命を阻止するために侵攻。ムジャーヒディーンと呼ばれるイスラーム=ゲリラが登場し、戦いは泥沼化した。国際的批判を浴びて1989年にソ連が撤退すると内戦状態となり、タリバーン政権が国土の9割を実効支配した。 No.208参照。
  - ⑥イスラーム復興運動の一部の勢力は、世界各地でテロ活動を行い、国際世論の激しい糾弾を浴びている。
- 4) **イラン・イラク戦争** No.196参照。

## アジアの地域紛争

少数民族問題による地域紛争が起きている。

- 1) クルド人問題……セープル条約（1920）は酷い条約だが、クルド人自治区の設定を規定した。ローザンヌ条約（1923）では欠落し、クルド人はトルコ・イラン・イラク・シリアの国境で分断された。クルド人の人口は約3千万と言われ、シリアやイラクと同じくらいの人口をもちながら、自らの国家を持たない最大の民族である。No.173参照。
- 2) インド・パキスタン問題……3次にわたり戦争した。①1947年 藩王国のカシミールにパキスタン軍が侵入、藩王国がインドに支援を求めた。②1965年 カシミール地方の国境上で両国が武力衝突。③1971年 インドのインディラ=ガンディー政権が東部パキスタンに対して軍事援助を行って、独立を支援。その後も両国の対立は鋭さを増した。1998年、インドが核実験に踏み切ると、同年、パキスタンが核実験で対抗、両国は核兵器を要して対峙した。9.11同時多発テロ以降は、アメリカはイスラーム原理主義との対決を強めるため、インド・パキスタンの対立を解消する必要に迫られ、アメリカはインド・パキスタンの和平に積極的に関わり、両国関係は次第に安定した。
- 3) スリランカのシンハラ系とタミル系……No.179参照。
- 4) インドネシア……東ティモール（東ティモール民主共和国）は、カトリックで歴史的にインドネシアとは別の国。1999年、国連主導の住民投票によりインドネシアの占領から、2002年、独立した（国際法上はポルトガルより独立）。21世紀最初の独立国である。2006年以降、政治的混乱が続いているが徐々に収束しつつある。